

近況報告

渡辺規夫

1. まちかど科学クラブ〈電気とその流れ〉

11月12日 第2回目 ひらひらくんをつくりました。

この年になって工作するとは思っていなかった。楽しかったです。(中村育男さん)

12月10日 第3回目 班に分かれて生徒実験 これがよかった。

2. 大道仮説実験講座〈しゅぼしゅぼ〉中野



11月13日(日)中野市西部公民館会議室1

大人も楽しい！！目に見えない空気を実験をとおして目に見えるように感じる事ができてとても楽しかったです。大人も毎回楽しい！！

(藤沢理香さん)

[参加者への手紙]

古代ギリシャの原子論を知ることで、ヨーロッパではルネッサンスという大きな運動が起き、そこから近代科学が生まれ、各地に科学講座をたのしむ人たちがたくさんあられました。

ルネッサンスというのは「自分の大事さを知る」という意味がありました。中世の時代には、「制度の中に自分をあわせていく」ということに価値があったのに対して、「自分というものを生かして制度を直していく」という営みがルネッサンスであった。今までの学問は「これを教えなかったら今の制度に適應できない」ということだったけれども、これからは「教えると時代おくれになる」というように発想を転換しなきゃならない。今、「こうならなきゃならない」という、知識を獲得させるための教育が確立しすぎちゃった。そうして、みんな自己を失っている。「みんなコレをしなきゃならない」というタテマエがあるけど、「知らない自分のほうが大事なんだ、ワクの方がくだらないのだ」と考える。

板倉聖宣講演 1972年4月22日 大阪四条畷小学校にて

私たちの活動は第二のルネッサンスと言えらと思います。

終了後藤巻さんとスタッフで食事をしながら談話会をしました。藤巻さんの講座にわれわれが参加してもいいなと思いました。藤巻さんは下道で1時間15分で着いたそうです。

3. 親子孫で〈たのしい仮説実験〉講座 30倍の世界

11月19日(土)と11月23日(水 祝日) 上田市中央公民館 第一会議室



感想文

自然しぜんにくくつついていく

はっぼうスチロールすいを水にうかべたら、しぜんにくくつついていっておもしろかった！
火ひの粉こも丸まるいいのとかいろんかたちな形かたちがああっててすごすかった！鉄てつなことがわわかった！！

鈴木彩葉すずきいろはさん(小5)

中野に参加予定だった渡辺徹さん一家は中野の講座の中止に伴い、上田の講座に参加してくれました。参加者 3家族+お一人様 1人 計9人

4. 親子孫で〈たのしい仮説実験講座〉 30倍の世界

12月3日(土)～4日(日)中野市中央公民館101体育室は中止しました。

5. 仮説実験授業研究会衰退について

仮説の有力会員が会員をやめたいと言っているということです。新潟仮説サークルは解散しました。『たのしい授業』は2600部しか出ていません。仮説社が今後も存続できるかどうか、予断を許さない状態です。

板倉さんが世界史入門(木綿の歴史)を作ったときに、19世紀のイギリスの木綿工業の興隆と衰退を取り上げて、興隆するのは長い時間がかかるが、衰退するのはたちまちだ。と言っていました。

このことは仮説実験授業研究会にも当てはまりそうです。10年ほど前に板倉さんが科学史学会会長になったとき、科学史学会の衰退が問題になっていました。科学史学会復興のために板倉さんを会長に担いだ人がいたそうです。科学史学会総会で伊東俊太郎さんが「仮説実験授業研究会を見習え」と言っていました。そのときの仮説の会員数は1200人、科学史学会は800人でした。10年ほどの間に状況が一変しました。

原因は、仮説実験授業を「学校の理科の授業をうまくやる方法」としてとらえていた人が多かったということではないかと思います。板倉さんのもともとの構想は科学史の成果を社会教育で実現しようと考えていました。そこへ上さこさんが来て仮説実験授業が誕生したので、仮説実験授業を学校でやるためのものとして扱われるようになりました。しかし、仮説実験授業は学校の授業でも使えるということであって、もともとは社会教育のためのものです。仮説実験授業はいつの間にか学校でやるものと思われてしまったようです。

仮説実験授業研究会会員の年齢構成は、中高年に偏っていて、あと2～3年で研究会員数のピークの人たちが65歳を迎えます。このまま行けば仮説実験授業研究会も仮説実験授業も衰退の道を辿ることになりそうです。

仮説実験授業を未来につなげるために何が必要か。

①仮説実験授業の大衆化の道をさぐる

各地で退職者が科学講座を始めていますが、その多くは持続可能とは言えないようです。講師をやっている人ができなくなったらそこで科学講座も終わるでしょう。

楽知ん研究所の取り組みは持続可能なしくみを作ろうとしています。退職後も仮説実験授業をやりたいという人は、楽知ん研究所の取り組みに注目してもらいたいと思います。

②仮説実験授業の理論的研究

仮説実験授業を科学史の研究対象として研究することはそのための方法の一つです。多久和さんたちによって進められている研究を先行研究としてそれに続く研究が待たれます。

仮説実験授業の楽しさを知ってしまい、退職後も仮説実験授業を続けたいという人はこの楽知ん研究所の活動と、多久和さんの科学史学会での活動に注目してほしいと思います。

6. 秋の講座のまとめ

10月1日	上田	大道仮説	しゅぽしゅぽ	4家族	11人参加
10月23日	佐久	大道仮説	どっか〜ん	12家族+2人=	35人参加
11月13日	中野	大道仮説	しゅぽしゅぽ	4家族+1人=	13人参加
11月19日と23日	上田	親子孫講座	30倍の世界	3家族+1人=	10人参加

中野講座以外の3回の会計は

収入 10万8320円

支出 20万3775円

不足分 9万5455円 上田仮説出版より補填

事業としてはまだ採算がとれていません。初期投資と考えています。この程度でくじけるようなら、科学講座はできません。親子孫講座の参加者が増えないと黒字にはなりません。持続可能な事業として仮説実験授業を未来につなげる事業としては黒字を出すようにしていく必要があります。ここでは学校での仮説実験授業の経験はほとんど役に立ちません。講師やスタッフをやるには、転職したというくらいの意識変革と覚悟が必要です。

楽知ん研究所の人は、2人とか3人の講座でも開講しています。根性でやっている感じですか。リピーターが出てきているのでそれを大切にしてくくは、ファン講座につなげていきたいです。(ファン講座は親子孫講座に3回以上参加したことがあることが参加条件です。5月と6月に名古屋でやった衝突の授業はファン講座です。)

全国を見ると、このような講座の潜在的需要はかなりあると思います。それを見出す方法をいろいろさぐっています。生協の機関紙に広告料30万円を払って広告を載せましたが、その広告を見て参加した人は全国で1家族のみとのこと。愛知県半田市の加藤輝幸さんは、地元のコミ紙に宣伝をだしたけれども、反応は0だったそうです。みんな人集めにいろいろ苦労しています。今のところ、小学校にチラシ配布するのが一番効果的のようです。教育委員会の後援をとらないと配布できないのが普通です。

退職後も仮説実験授業をやり続けることはなかなか困難です。その困難を集団の力、組織の力で解決しているのが楽知ん研究所です。

7. 竹田美紀子さん ミニ授業書《コマであそぼう》

授業書が送られてきました。仮説社でも扱うそうです。小学生でもできます。

8. 『特許物語』書評

著者は黒島光昭さんという人で、排水処理技術開発を研究していた。現在はさわかみ投信株式会社の社長である。

この本は自分の子どもにお父さんが何をしていたかを知ってもらうために書いたのだという。フランクリン自伝が自分の子どものために書いたのであるが、実際に子ども以外の多くの人たちに読まれ役立てられた。それと同じようにこの本は黒島さんの子ども以外の人にとっても非常に有益である。

著者は糞尿をメタン菌によって分解してメタンガスを燃料として取り出すシステムを開発した技術者である。研究で成果を上げるまでの苦労、工夫、多くの人の知恵と経験を借り、発明に邁進していくようすは、痛快である。

研究を完成させて考えて出した結論は「世の中にどうしても必要とされる事業、生活者が共感を覚えるような事業に真っ当にお金が出るようなしくみをつくらないとだめなのではないか。」ということであった。そのことからさわかみ投信に転職したのである。この本は黒沢さんに直接連絡すると送ってもらえるということです。代金は感想を送るということだそうです。

9. 紙芝居 アルキメデスの遺言 小出雅之さん

高見沢さんの研究に触発されてつくったのだそうです。ちょっと問題点があります。

10. 紙芝居 楽知んカレンダー 吉田義彦さん

楽知んカレンダーのCM紙芝居。暦人になってもらうのがねらいです。

暦人は2024年のカレンダーを予約して前払いしてくれる人のことです。カレンダーの誕生日にころりんマークがつきます。

11. 2021冬の大会フリップ 吉野幸子さん

楽知ん研究所の宣伝

12. 井藤伸比古さん

実証主義の歴史の研究

研究を発表する場がない。仮説実験授業研究会をやめようと思っていた・

多久和さんの研究会に参加して発表できた。科学史学会で発表したい。

13. すずめの戸締り

新海監督の映画を見ました。内容とは別に、牧さんの言っていた映画における緊張と弛緩についてうまくできているなあと感じました。

観客に緊張を強いる場面の次に、車でただ走っている場面が来て、弛緩の時間をとっているのが見事です。緊張ばかりではつらい。弛緩ばかりでは飽きてしまいます。

授業も然り。緊張ばかりの授業をしている先生、弛緩ばかりでゆるみきった教室を作り出している先生、なかなか自覚できないようです。

大道仮説をやるとき最近では途中で休憩をとりますが、かつては90分ぶっ続けてやりました。小学校低学年の子でも興味が続きました。ある元小学校の先生が自分の孫が90分集中しているのを見て驚いていました。